

「豊橋自然歩道」の開設と推移

枕木遊歩道で葦毛湿原を保護

1965(S40)年当時、葦毛湿原は一般には未だ知られていなかった。地元植物研究家の恒川敏雄先生は、湿原の植物を調査・観察する中で現在環境省レッドデータブック絶滅危惧種であるシラタマホシクサやミカワシオガマ、また低山では珍しいミカワバイケイソウなどが自生し、湿原一帯が貴重な自然環境と植物群落の宝庫であることを解明した。

恒川先生とともにこの地を訪れた豊橋文化協会副会長野沢東三郎氏は、開発の波がこの地にまで及ぶことに危機感を抱き、湿原保護の必要性を痛感した。

1967(S42)年、湿原保全のための枕木遊歩道設置計画は、地主の理解と承諾を得ることができ、更に青年会議所の枕木資金などの援助も受けることができた。

当会の夏目久男(当時会長)にも協力の依頼があり、同年7月23日葦毛湿原の幹線に単線の枕木遊歩道が開通した。1977(S52)年2月、遊歩道は複線化された。尚、現在の木道散策路は1992(H4)年3月に新しく整備された遊歩道である。



1967年 炎天下の遊歩道設置作業

豊橋自然歩道推進協議会への参加

1968(S43)年厚生省(当時)は、自然の中を歩き自然に親しむ場を作るため、東海自然歩道の構想計画を発表した。1969(S44)年5月、それに呼応して市の東部弓張山系に市民が身近に自然に親しむことのできる、豊橋自然歩道の構想が豊橋文化協会(現豊橋文化振興財団)の懇談会で提案された。同年8月29日豊橋山岳会を含めた8団体の協力と市の賛同を得て、豊橋自然歩道推進協議会が結成された。



1967年 秋の日の遊歩道設置作業

自然歩道35.5kmの整備に協力

1969(S44)年9月から整備が始められた石巻山自然歩道は、同年体育の日に完成された。これに続く5本の自然歩道(葦毛湿原・岩崎、嵩山、多米、中山、普門寺)と弓張山系尾根上の本線を含めた35.5kmを3年余の歳月をかけ、会員の努力と多くの市民の協力を得て完成した。



1976年 石巻山自然歩道案内板設置作業

現在では湖西市・三ヶ日町・豊橋自然歩道推進協議会より発行されている「湖西連峰ハイキングコース、豊橋自然歩道」のガイドマップに2本の自然歩道本線を含む東山、葦毛湿原・岩崎、普門寺、神石山、普門寺・神石山、多米、石巻巡回遊歩道、石巻山、嵩山、旧姫街道(嵩山～本坂峠)中山自然歩道支線の13のコースが紹介され多くのハイカーに利用されている。

その後長彦、赤岩、赤岩寺自然歩道のコース案内も推進協議会より出されている。



1967年 葦毛湿原遊歩道整備中の会員



2006年 葦毛湿原から登山するスポーツ祭参加者

参考文献「豊橋自然歩道」(1980年版)
編集 豊橋自然歩道推進協議会
発行 社団法人豊橋文化協会(現豊橋文化振興財団)